

# 海況モニタリングシステム導入事業\*

阪本俊雄

## 目 的

これまでの串本の定地観測継続により、黒潮の離接岸をほぼ見当できるよう調査研究を蓄積してきた。しかし、これは毎日欠測なく現地観測を行っているためで、本事業はこの労力と時間を軽減するとともに、リアルタイムにかつ連続した海況情報を得て、研究の進展と漁業の近代化を図る一助とする。

串本の地勢では、東岸と西岸の2ヶ所で観測を行うことが大切で、現在も1日1回（午前9時）観測を実施中であるが、本事業では近年の発達した観測機器ならびに通信による遠隔観測システム（海況モニタリングシステム）を導入し、もって省力化を行う。また、串本周辺の養殖漁場のモニタリングにも役立つ情報が得られる。

## 方 法

海況モニタリングシステムとして、三洋マリンテクノ（株）の「シーコム」を導入した。このシステムは海上観測ブイからの情報を無線通信により陸上局で受信する遠隔観測システムであり、陸上の研究室などでリアルタイムの情報を得ることができる。

システムは、海上ブイに取り付ける観測センサーと海上通信システムおよび陸上の受信局の三つから構成される（図1）。

平成3～平成5年度の3ヶ年計画で海上2局（東岸、西岸）と陸上局を設置し本システムを完成させる。その年次計画は次のとおりである。

平成3年度……観測センサー（東岸）、陸上局など

平成4年度……海上通信システム（東岸）、処理プログラムなど

平成5年度……観測センサー（西岸）、海上通信システム（西岸）など

## 結 果

串本の東岸に設置する観測センサーと陸上局を整備した。平成4年度に予定している海上通信システム（東岸）、処理プログラムなどの導入したあと、試験運用する。

---

\*海況モニタリングシステム導入事業による。

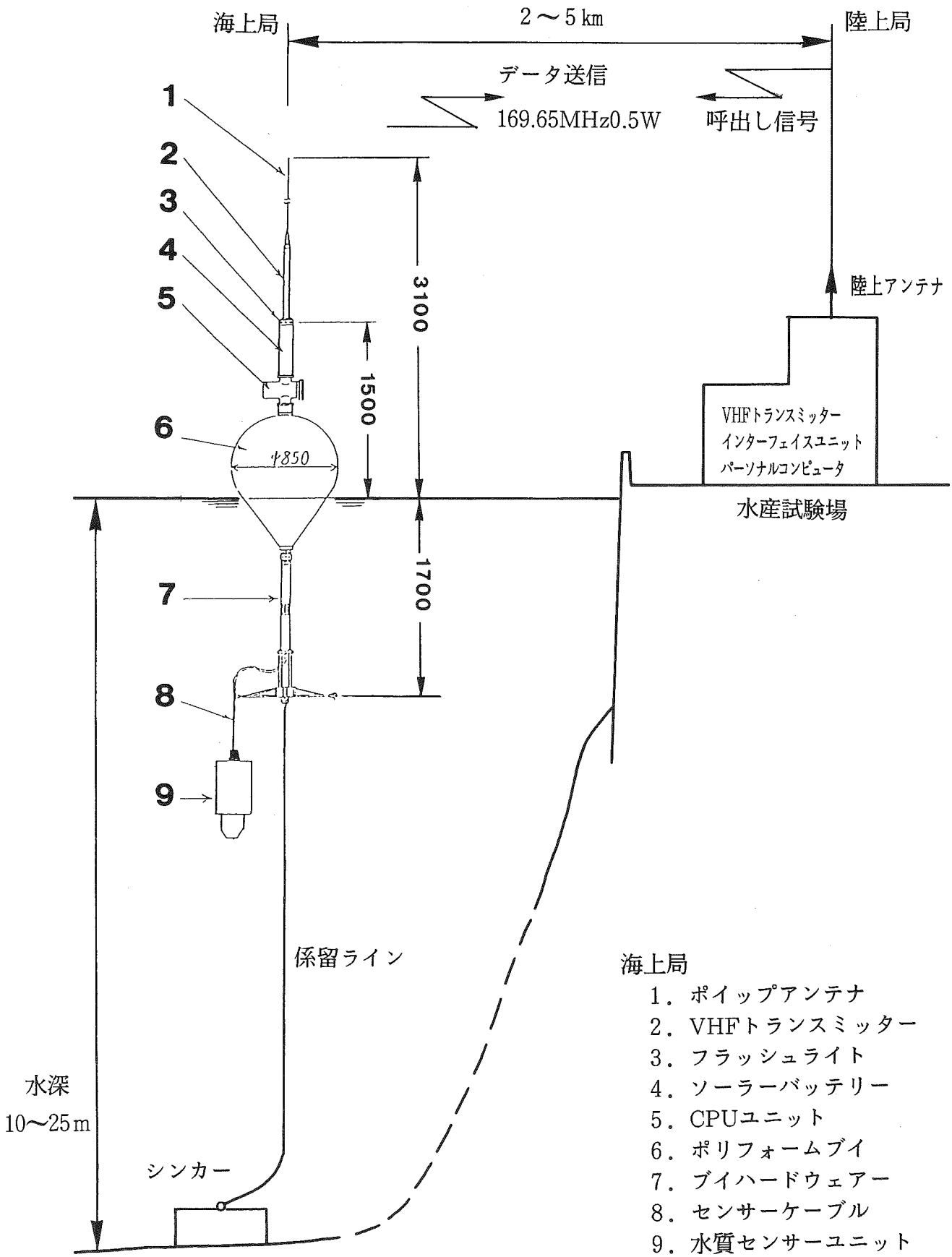


図1 海況モニタリングシステム